

富山県と 日露戦争

去年から3年にわたりNHKで放送される予定のスペシャルドラマ「坂の上の雲」(原作/司馬遼太郎)。このの後半部分で日露戦争が描かれている。そこで、富山県民と日露戦争について少し調べてみた。

1873(明治6)年に徴兵令が施行され、1889(明治22)年に大改正が行われ、兵役にたえないものをのぞき、男子は全部兵役に服することになった。師団は、東京、仙台、名古屋・大阪・広島・熊本に近衛を合わせて7つあった。富山県は、名古屋第三師団の第六旅団に属し、翌1890(明治23)年5月に、富山市

に富山大隊区司令部が設置された。1894(明治27)年、朝鮮をめぐる日清戦争が勃発。富山県の兵士たちも参軍し、170名の戦死者を出した。

戦後、軍備の拡張が行われ、1896(明治29)年7月、金沢に新たに第九師団が設けられ、富山大隊区はこれに所属し、富山連隊区司令部と改称。

1904(明治37)年、ロシアはシベリアから南進を続け、満州を手中に収めて韓国をうかがうに至ったため、同年2月10日、日本政府はロシア政府に対し宣戦布告を行った。同年5月9日、第九師団に動員令がくだった。富山県の兵士が所属する金沢歩兵第三五連隊は、乃木希典將軍の指揮下に入り、難攻不落の堅城として知られた旅順要塞の攻撃に加わ

った。小説「坂の上の雲」にも描かれているが、戦争は壮烈をきわめ、おびただしい血が流れた。特に、8月21日からの盤龍山砲台攻撃戦では、3度目の突撃で砲台占領に成功したが1578名もの戦死者を出した。その後の一戸堡塁の攻撃戦、盤龍山東砲台の攻撃戦などに奮戦し、翌年1月2日ついに旅順開城。さらに長駆して、奉天の大会戦に参加。敵の背後に迂回して、四方台、高力屯、八家子に転戦。勇猛越中健児の名を天下にとどろかせたという。日露戦争で戦死した富山県人は三五連隊を主として2508名におよんだ。

なお、旅順開城の号外に、富山県は歓呼の声にわきたち、西町の交差点には凱旋門が建てられ、提灯行列・旗行列に、万歳万歳の声が町にあふれたという。